

第 60 回日本電気泳動学会総会開催案内

第 60 回 日本電気泳動学会総会を下記の要領で開催を予定しております。

日本電気泳動学会は、電気泳動を中心とする新しい分離分析技術の開発や理論の確立、および基礎研究および臨床医学研究の分野における応用研究を促進することを目的とし、1950年に設立されました。現在電気泳動は、蛋白質だけでなく核酸や糖質などのさまざまな生体分子の分離分析法として、世界各国で、基礎研究としての生命科学はもとより、応用科学として医学、創薬、農学、水産・畜産学、犯罪捜査など、幅広く利用されています。

本学会は、以前は学術集会を春の大会と秋の総会の年2回行っておりましたが、平成14年より春季大会を定例シンポジウムの形とし、一般演題を含めた学術発表会は年1回、秋に開催される形に変更されました。そして、今回、第60回の歴史ある記念大会を長野県松本市で開催することとなりました。

今回は、基調講演として「タンパク質解析にも適したMALDI-DITMS」を2002年ノーベル化学賞受賞者の田中耕一先生（島津製作所フェロー田中耕一記念質量分析研究所所長）、特別講演として「電気泳動法の過去・現在・未来」を山口大学の中村和行先生、教育講演として「自己免疫膵炎とIgG4」を信州大学の川茂幸先生、「アミロイド蛋白の基礎と臨床」をテーマとしたシンポジウム、さらに、第60回を記念した特別企画として「未来に向けて-若手研究者が語る私の研究ライフワーク」と「臨床検査領域におけるプロテオミクスの現状と未来像」（長野県臨床衛生検査技師会共催）、そして多くの一般演題の口演を企画しております。基礎医学から臨床検査への応用や基礎となる生命化学について十分勉強できる内容になればと望んでおります。

参加者は、主に医師、臨床検査技師、薬剤師、基礎医学研究者などの日本電気泳動学会会員であります。が、非会員でも自由に参加できますので、多数の方々のご参加とご発表をお待ちしております。

第60回日本電気泳動学会総会長 藤田 清貴

第 60 回日本電気泳動学会総会

1. **会期**：平成21年9月19日（土）、20日（日）
2. **会場**：Mウイング文化センター（松本市中央公民館）
（〒390-0811 長野県松本市中央1-18-1 TEL.0263-32-1132）
3. **行事予定**：
 - I. 基調講演：「タンパク質解析にも適したMALDI-DITMS」
田中 耕一（島津製作所フェロー田中耕一記念質量分析研究所所長）
司会：藤田 清貴（信州大学大学院 医学系研究科）
 - II. 特別講演：「電気泳動法の過去・現在・未来」
中村 和行（山口大学大学院 医学系研究科）
司会：櫻林 郁之介（自治医科大学名誉教授）

III. 教育講演：「自己免疫膵炎とIgG4」

川 茂幸（信州大学 健康安全センター）

司会：前川真人（浜松医科大学医学部 臨床検査医学）

IV. シンポジウム：「アミロイド蛋白の基礎と臨床」

司会：山田 俊幸（自治医科大学 臨床検査医学講座）

森山 隆則（北海道大学医学部 保健学科）

1) アミロイド線維化のメカニズム

内木 宏延（福井大学医学部病因病態医学講座 分子病理学）

2) アミロイド沈着の蛋白化学的解析

矢崎 正英（信州大学医学部脳神経内科 リウマチ・膠原病内科）

3) アミロイド蛋白への治療アプローチ

大林 光念, 安東 由喜雄（熊本大学大学院医学薬学研究部）

4) アミロイドーシスの臨床検査

山田 俊幸（自治医科大学 臨床検査医学講座）

V. 特別企画Ⅰ：「未来に向けて-若手研究者が語る私の研究ライフワーク-」

司会：中村 和行（山口大学大学院 医学系研究科）

平野 久（横浜市立大学大学院 国際総合科学研究科）

1) 私が目指す研究者

増石 有佑（横浜市立大学大学院 国際総合科学研究科）

2) 10年後の蛋白研究者としての私

田中 寿幸（山口大学大学院 医学系研究科）

3) プロテオーム解析を基盤とした診断マーカー探索法の開発とその応用

川島 祐介（北里大学理学部 生体分子動力学研究室）

4) 消化管領域を巡る研究 -*H. pylori* から始まった臨床検査室からのアプローチ-

久保田 聖子（信州大学医学部附属病院 臨床検査部）

VI. 特別企画Ⅱ：長野県臨床衛生検査技師会共催 初心者技術セミナー

「臨床検査領域におけるプロテオミクスの現状と未来像」

司会：中西 豊文（大阪医科大学 総合診断・治療学講座）

山内 一由（信州大学医学部附属病院 臨床検査部）

1) 診断マーカーのプロテオミクス -探索, バリデーション, 利用の方法-

平野 久（横浜市立大学大学院 国際総合科学研究科）

2) 非変性マイクロ2次元電気泳動とMALDI-MSによる血漿タンパク質の同定

真鍋 敬, 金 亜（愛媛大学大学院 理工学研究科）

- 3) 高分子量蛋白質を対象とした疾患診断用マーカー探索
大石 正道 (北里大学理学部 物理学科)
- 4) 2次元電気泳動を用いたプロテオミクス解析の良いところ
大房 健 (東和環境科学 プロフェニックス事業部)
- 5) 新しい遺伝子検査方法としてのMLPA法の有用性
福井 崇史 (ファルコバイオシステムズ バイオ事業本部)

VII. 日本電気泳動学会児玉賞受賞講演

VIII. ランチョンセミナー

IX. 機器展示

4. 総会参加費：5000円 (学生2000円)

5. 会員懇親会：9月19日 (土)

6. 一般演題の申込要領

1) 演題申込はインターネット・メールで行います。発表は全て口演の予定ですが、日程の関係でポスター発表のセッションも設ける可能性もあります。

日本電気泳動学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jes1950/>) にアクセスして頂き、トップページから所定の抄録記入用ファイル (MS Word ファイルでファイル名 “summary.doc”) をダウンロードしてください。ご不明な点は下記申込先までご連絡下さい。演題欄、氏名・所属欄、および要旨欄にそれぞれ必要事項を上書きして頂き、ファイル名を筆頭者氏名 (ローマ字小文字、例 ;kiyotakafujita.doc) に変更した後、下記の申込先宛に添付書類として送信してください。なお、枠組みの位置など、書式の変更はしないでください。また、メール本文にも申込者氏名、所属、連絡先を明記してください。

学会プログラムは、決定次第ホームページ上に掲載いたします。

2) 申込先：eidou60@shinshu-u.ac.jp

3) 申込締切：平成21年5月15日 (金)

会期が例年より2ヶ月程早いため、演題申込締切も早いのでご注意ください。

7. 演題抄録の作成方法

以下の事項を厳守してください。

- 1) 講演抄録は、目的・方法・成績・考察の順に具体的に記載し、あまり余白のないように記述してください。また、MS明朝・9ポイント (字送り9pt)、25字詰×43行、2段で2,150字が印字できるようになっています。
- 2) 図表、写真を貼り付けても結構ですが、総ファイル容量を1MB以下にしてください。
- 3) 用語などについては生物物理化学投稿規程に従ってください。日本文以外 (単語を除く) で記述したものは受け付けません。
- 4) 演題名は内容を表す範囲で簡潔に表現してください。
- 5) 所属は氏名の後に、所定の場所に略称で記入してください。
- 6) 演者の氏名の前に○印を付けてください。

38歳以下の演者の方は学会奨励賞の対象になりますので◎印を付けてください。

8. 日本電気泳動学会奨励賞

一般演題の演者として優秀な発表をした若手研究者（38歳以下）2件に対して奨励賞が贈られます。

9. 第60回日本電気泳動学会総会事務局

〒390-8621 松本市旭3丁目1-1

信州大学医学部保健学科 検査技術科学専攻

亀子文子（事務担当）

連絡先 TEL：0263-37-2387 FAX：0263-37-2370

E-mail：fkameko@shinshu-u.ac.jp

10. 入会方法および問い合わせ先

一般演題での発表者は本学会会員に限りませんが、連名発表者は非会員でも結構です。

演者で非会員の方は、申込と同時に入会手続きを行ってください。

学会事務局：〒229-8501 相模原市淵野辺 1-17-71

麻布大学内 日本電気泳動学会

TEL/FAX：042-769-2293

E-mail：honjo@azabu-u.ac.jp